

<NEWS RELEASE>

2026年2月5日

WILLER TRAINS 株式会社

京都丹後鉄道の宮津駅と福知山駅に「駅スマート販売機」を導入 ～いつでも気軽に地域のおみやげや丹鉄グッズが購入可能に～

京都丹後鉄道(以下「丹鉄」)を運行する WILLER TRAINS 株式会社(本社:京都府宮津市、代表取締役:飯島徹)は、駅利用者の利便性向上および地域経済の活性化を目的に、IoT 技術を活用した次世代型無人販売機「駅スマート販売機」(<https://trains.willer.co.jp/event/station-smart-vendingmachine/>)を、2026 年 2 月より宮津駅待合室内および福知山駅構内にて導入開始しました。



丹鉄では、これまで人手不足や採算性などの課題から有人売店の運営が難しく、「列車を待つ間にちょっとしたお土産を買いたい」「食べ物を買える場所が欲しい」といった駅利用者からの声が寄せられていたものの、十分に応えることができませんでした。

今回導入した「駅スマート販売機」は、株式会社スマリテが開発したハカリ式の完全キャッシュレス・完全無人型販売機です。運営コストを最小限に抑えながら、これまで実現が難しかった駅での買い物体験を可能にしました。まずは宮津駅と福知山駅の 2 駅において導入効果を検証し、今後は他駅への展開も視野に入れ、各駅の利用特性に合わせた運営を検証してまいります。今回の導入により、駅利用者の待合環境の利便性向上を図るとともに、地域の商品を販売することで地域事業者の新たな収益機会を創出し、駅利用者と地域の双方にメリットのある持続可能な取り組みを目指します。

「駅スマート販売機」導入のポイントは、以下 2 点です。

① 「駅スマート販売機」の特長を活かした柔軟な販売展開

販売する商品は、「駅スマート販売機」の棚サイズに収まるものであれば形状を問わず、地元の銘菓から丹鉄グッズまで幅広い展開が可能です。また、商品の入れ替えが容易なため、季節限定商品や新商品のテスト販売など、利用者のニーズに応じた柔軟な品揃えを実現できます。

② 異なる利用特性を持つ 2 駅での導入検証

丹鉄の拠点駅でありながら徒歩圏内に店舗が少ない宮津駅では、生活・観光双方の利便性向上と地域商品の販路拡大を目的に、列車待ちの時間に気軽に買い物ができるよう待合室内に設置しました。一方、JR 線からの乗換駅である福知山駅では、インバウンド観光客や広域利用者のタッチポイントとして、短時間の乗り継ぎ時間でも改札を出ることなく購入できるよう、駅構内に設置しました。

今後も、丹鉄は、地域の皆様に愛される鉄道を目指してまいります。

■「駅スマート販売機」の概要

<導入時期> 2026年2月～

<設置場所> 宮津駅(待合室内)、福知山駅(改札内)

※福知山駅は改札内のため、販売機のみのご利用の際にも駅入場券の購入が必要となります。



宮津駅(待合室内)



福知山駅(改札内)

<利用可能時間> 各駅の営業時間内

<取扱商品>

- ・宮津駅: 天橋立塩バターサンド、丹鉄グッズなど
 - ・福知山駅: 松茸昆布、ドリップコーヒー、福知山お土産セット、光秀うどん、光秀せんべい 5枚入り袋、丹鉄グッズなど
- ※時期により取扱商品が変更となる場合がございます。

<購入方法>

「タッチ」OR「スキャン」するだけ。購入プロセスが、たった「5秒」で完了。



<特設ページ> <https://trains.willer.co.jp/event/station-smart-vendingmachine/>